

ースタッフ紹介ー

役 職	スタッフ名
健康管理センター長	南谷 かおり
副センター長	増田 大作
非常勤医員	馬場谷 美知子
応援医師	葛城 有希子
看護師	谷口 美晴
保健師	岩本 文夏

ー概要ー

健康管理センターは2018年度に新たに副センター長として増田大作医師が、また岩本文夏保健師が参画することとなった。常勤医員2名（南谷医師・増田医師）、非常勤医員1名（馬場谷医師）に加え、応援医師1名（葛城医師）、看護師1名（谷口看護師）、保健師1名（岩本保健師）にて業務を行っている。マンパワーの増加もあり、今年度から健康診断の増加を見据えたシステムの改築や拡大を1年間かけて検討した。さらに、従来の人間ドック、脳ドック、乳がん検診、その他各種健診業務、保健指導、女性外来に加え、指定航空身体検査（パイロット健診）、検査睡眠時無呼吸症候群の簡易スクリーニングやアミノインデックスがんリスクスクリーニング検査後にがんリスクが高かった方を対象とした精密検査などのオプション項目を増加させた。

人間ドックは完全予約制で月・水・金曜日、脳ドックはそれに加えて土曜日に頭部MRI・MRA検査を行っている。特定健診、後期高齢者医療健診および企業健診は平日の午前中、泉佐野市民検診である骨密度測定検査は平日の午後、市民乳がん検診は日曜日に年7回（1回あたり28名）、乳がん検診セットは平日の午後に行っており、それぞれ予約制となっている。一般検診は平日の午前中に行っており、予約は不要である。今年度から、増田副センター長による指定航空身体検査を開始した（10月1日より）。これは、本邦におけるパイロットに2年に1回義務付けられている健康診断で、通常健康診断とは異なりインキャパシテーション（現在異常がなくても今後異常が起こりうる状態）の有無について評価するものである。今回新たに契約を締結したピーチアビエーションの定期受診と、さらに資格所得前のパイロット希望者用の個人健診を開始した。ピーチとの契約は一般社員の定期検診の受注にもつながった。また、ロジスティックス（運輸業、バスタクシー業）関連においてトラブルの背景となる睡眠時無呼吸症候群の終夜酸素飽和度測定によるスクリーニング健診を開始し、当院循環器内科における睡眠時無呼吸専門外来と、スクリーニング後治療開

始につながるよう連携し、実際に数例が無呼吸症候群の診断のもとCPAP治療で無呼吸が改善し、業務の継続遂行が可能となっている。

特定健診受診後、保健指導対象者となった受診者には、当日中に保健指導を行い、生活習慣の改善によるメタボリックシンドローム発症予防をめざしている。特に、近隣地域における心原性脳梗塞の発見のための心電図スクリーニングを行い、心房細動患者を発見して当院一般外来での治療につなげ、発症予防に貢献することができた。その他、被爆者2世健診、海上保安庁、消防署、関空の検疫所等の公務員の健診、就学時・就職時健診、企業の職員およびそのご家族の健診等を行っている。

外国人専用健診は訪日外国人旅行者を対象とした健診であり、現在のところ対応可能言語は中国語で、診察・検査には通訳を付けている。検査結果報告書は日本語・中国語の両方で作成し、今年度からは詳細な画像を添付するなど、より受診者が理解しやすいよう改訂を行った。

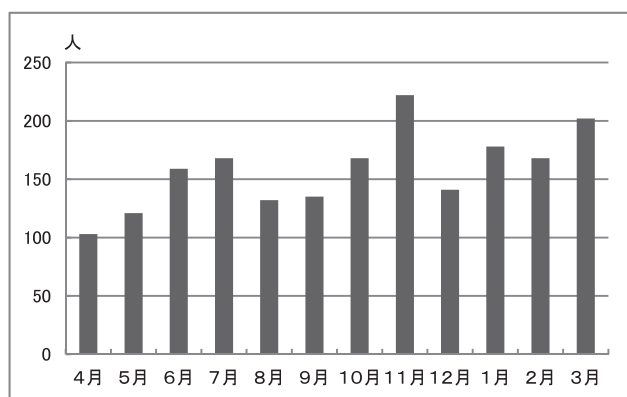
アミノインデックスがんリスクスクリーニング検査は従来から実施していたが、今年度は日本医療福祉生活協同組合連合会を介して大阪いずみ市民生協組合員に検査を実施する医療機関として契約を締結し、受診件数がかなり増加している。また、検査後のフォローアップとして、がんリスクが高かった方を対象とした精密検査も健康管理センターで行うようにし、異常があった場合は院内の各専門科に紹介している。

ー実績ー

2018年度の健康管理センター利用件数は、延べ1,897件である。内訳は表に示す通りで、昨年と比較すると検査後の精密検査を含めたアミノインデックス検査や特定健診・後期高齢者健診、外国人健診は増加しており、地域や当院の特性を生かした予防医学への貢献につながった。他方、人間ドック、企業健診等は減少した。新規に開始した指定航空身体検査・睡眠時無呼吸スクリーニングは追加となった。今年度になり健康診断の多様化を目指した結果、検査項目も増え収益の改善に貢献しているが、週3日しか実施できていない人間ドックにおいては規定受診者数を維持しただけで大幅な収入増加にはつながっていない。来年度は新規システムの追加も予定しており、対応可能件数を増やしてさらなる集客の増加を目指して進めていきたいと考えている。

健康管理センター利用件数

	2017 年度	2018 年度
人間ドック・脳ドック	858	834
オプション脳ドック	196	177
企業健診・一般健診	278	254
特定健診・後期高齢者健診	81	126
特定健診保健指導	49	49
乳がん検診(市民・自費)	185	159
被爆者健診	40	33
骨密度測定	81	74
一般予防接種・抗体検査	32	32
指定航空身体検査	-	2
外国人専用健診・ドック	5	11
アミノインデックス検査 (検査後の精密検査を含む)	54	130
睡眠時無呼吸スクリーニング	-	14
女性外来	4	2
合 計	1,863	1,897



2018年度 月別健康管理センター利用件数

—今年度の成果と反省点—

健康管理センターが昨年度から3階で正規稼働しているが、周辺の健康診断施設に比べると施設は狭く非力であるのは事実である。しかしながら、スタッフの努力もあり、新規事業に関しては件数の確保に成功している。今回マンパワーの充足もできたことから2019年度に新規健康診断システムの導入を決定し、IT化による受診者数増加に対応しうるシステムを確立して地域の健康診断需要に応えたいと考えている。また、継続して周辺企業への検診受け入れのリクルーティングを行っており、今後健康診断および人間ドックの受診者は増加しうると期待している。外国人専用健診についても他施設との価格差や関西空港に近いという地域の利便性を有利に展開し、直接受注によるインバウンド健診者の増加を図りたいと考えている。

—来年度への抱負—

今までの健康管理センターは当院規模に比較してマンパワーの問題や検査も他部門に依存していたこともあり、十分な数の受診者を受けられず、断ることも比較的存在していた。今回、2019年度から新規健康診断システムを導入、

臨床検査技師を増やすことにより受診者の増加に対応しうるシステムを確立する。また人間ドックに関しても、受診者の利便性を考慮して毎日受診でき、必要に応じて一般外来へ院内紹介できることを目標とする。さらに健康診断に関しては地域の特定健診を全て受注し、また新たに協会けんぽの対応可能施設になることで今まで対象外であった受診者の新規増加を目指したいと思う。職員検診も外部委託している状態であり、令和元年度から院内対応を検討することで当院のコストロスも考えていきたいと思う。